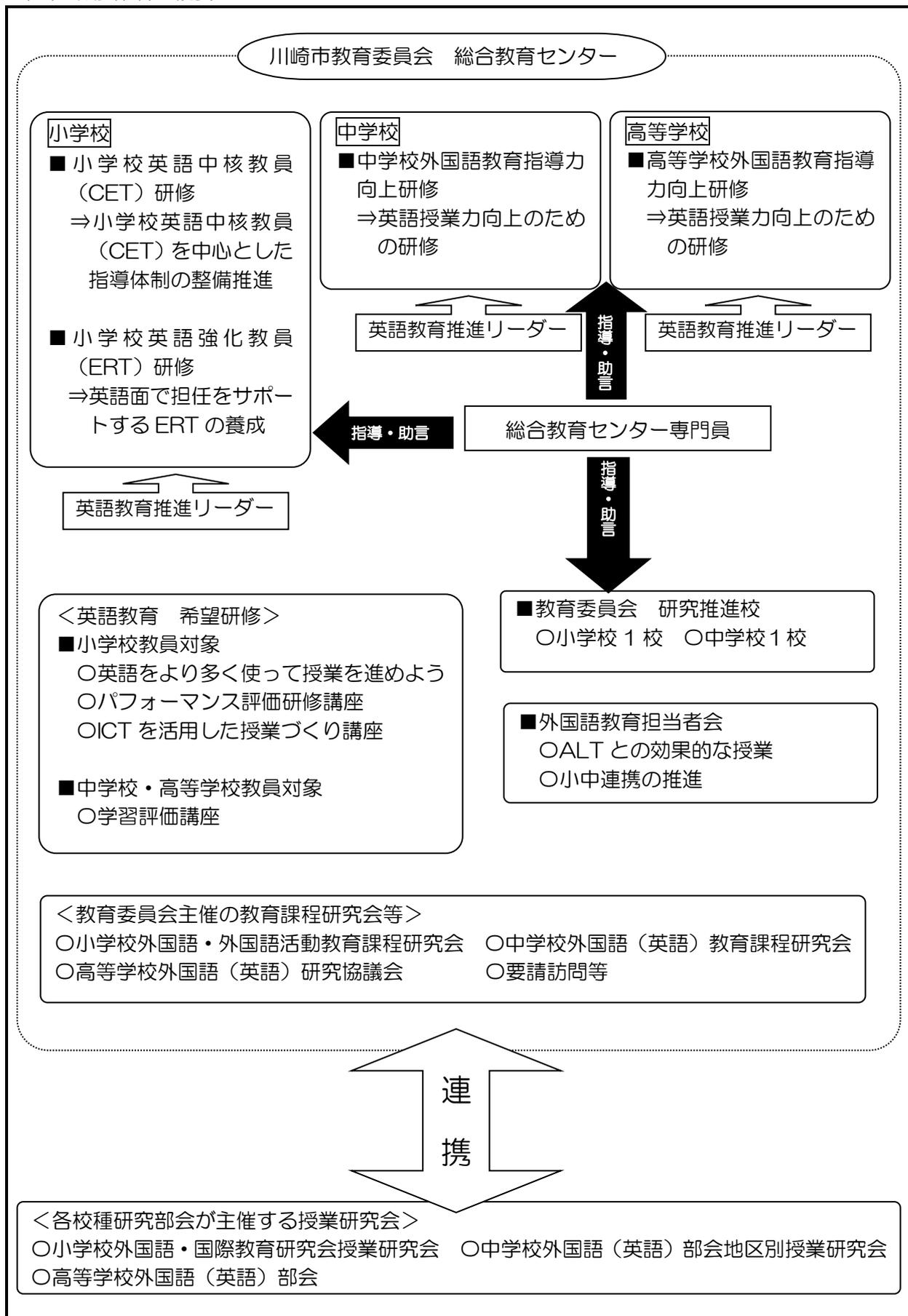


川崎市 英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

【高等学校】

① 「求められる英語力を有する英語担当教員の割合」について

令和3年度は、前々年度比14.8ポイント減の59%であった。令和4年度は目標値85%の達成に向けて、「高等学校外国語教育指導力向上研修」を実施し、英語科教員の英語力及び指導力を向上させるとともに、高等学校各教科等研究協議会や研修の中で、外部検定試験未受験者に対して受験を奨励していく。また同時に受験料の一部負担を実施するなどして、引き続き教員の英語力及び指導力の向上を図っていく。

② 「求められる英語力を有する生徒の割合」について

令和3年度は、前々年度比21.4ポイント増の60.4%であった。令和4年度は目標値60%の達成維持に向けて、市教育委員会と高等学校英語部会で設定する市の研究主題「4技能を育成するための指導と評価の研究」に沿って各学校で研究に取り組むとともに、各教科等研究協議会英語科部会を通して周知し、授業改善につなげることに努める。また、生徒の外部検定試験受験を推進するように、各研修や協議会で各学校に促していく。

③ 「学習到達目標の整備状況（設定・公表・達成状況の把握）」について

令和3年度は、学習到達目標の設定については、前々年度と変わらず86.7%、公表については、前年度比26.7ポイント減の13.3%、達成状況の把握については、前年度比13.3ポイント増の13.3%であった。令和4年度は目標値である設定100%、公表50%、達成状況の把握50%の達成に向けて、全校が「『CAN-DOリスト』の形での学習到達目標」を設定するとともに、それらを生徒や保護者と共有し、またホームページ等で公表することを各教科等研究協議会英語科部会や外国語教育担当者会等を通して各校に促していく。また、引き続きCAN-DOリスト及びそれを反映した年間指導計画を市教育委員会に提出するようにする。

④ 「生徒の英語による言語活動時間の割合」について

令和3年度は、前々年度比0.3ポイント増の75.3%であった。令和4年度は目標値80%の達成に向けて、「高等学校外国語教育指導力向上研修」、各教科等研究協議会を通して、発信力の向上や統合的な言語活動の具体的な実践的な取組例を示して授業における言語活動を充実させるよう授業改善への取組を各学校に促していく。

⑤ 「各科目におけるスピーキングテスト及びライティングテストの実施状況」について

令和3年度は、スピーキングテストは2科目で増加、3科目で減少となり、ライティングテストは5科目で減少であった。令和4年度以降も目標値の達成に向けて、「高等学校外国語教育指導力向上研修」や「英語教育希望研修」で学習評価の研修を実施し、また各教科等研究協議会で実践事例の紹介し、各科目において適切なパフォーマンス評価が着実に行われるよう取り組む。また各教科等協議会で、年間指導計画にパフォーマンステストの実施計画の記載を各校に求め、提出するようにする。

⑥ 「英語担当教員の英語使用状況」について

令和3年度は、前々年度比5.1ポイント減の75.3%となり目標値を達成した。令和4年度以降も目標値85%とし、「高等学校外国語教育指導力向上研修」や各教科等研究協議会を通し、授業力向上の研修を実施し、各校の授業改善を進め、英語科教員の英語力・指導力向上を図っていく。

⑦ 「研修実施回数及び受講者数」について

現在の取組を継続・検証し、効果的な研修につなげていく。また、学校訪問による授業視察及び指導・助言を行う。

【中学校】

① 「求められる英語力を有する英語担当教員の割合」について

令和3年度は、前々年度比15.2ポイント増の55.1%であった。令和4年度は目標値60%の達成に向けて、「中学校外国語教育指導力向上研修」を実施し、英語科教員の英語力及び指導力を向上させるとともに、年2回の教育課程研究会や研修の中で、外部検定試験未受験者に対して受験を奨励していく。また同時に受験料の一部負担を実施するなどして、引き続き教員の英語力及び指導力の向上を図っていく。

② 「求められる英語力を有する生徒の割合」について

令和3年度は、前々年度比8.3ポイント増の51.8%であった。令和4年度は目標値55%の達成に向けて、市の教育研究会英語科部会の研究主題「主体的な学びを通して、積極的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成～目的・場面・状況を意識した授業の実践～」に沿って、各学校で研究に取り組み、研究授業や市教育委員会が主催する教育課程研究会、外国語教育担当者会等を通し、教員の指導力向上に努め、授業改善につなげるものとする。また、生徒の外部検定試験受験を推進するように、教科部会総会や各研修、教育課程研究会で各学校に促していく。

③ 「学習到達目標の整備状況（設定・公表・達成状況の把握）」について

令和3年度は、学習到達目標の設定については、前年度比3.9ポイント増加し98.1%、公表については、前々年度比19.2ポイント増の51.9%、達成状況の把握については、前年度比40.4ポイント増の73.1%であった。令和4年度は目標値である設定100%、公表75%、達成状況の把握75%の達成に向けて、全校が「『CAN-DOリスト』の形での学習到達目標」を設定するとともに、それらを生徒や保護者と共有し、またホームページ等で公表することを教科部会総会や各研修、教育課程研究会を通して各校に促していく。また、引き続きCAN-DOリスト及びそれを反映した年間指導計画を市教育委員会に提出するようにする。

④ 「生徒の英語による言語活動時間の割合」について

令和3年度は、前々年度比9ポイント減の75.2%であった。令和4年度は目標値85%の達成に向けて、「中学校外国語教育指導力向上研修」や教育課程研究会、外国語教育担当者会を通して、言語活動の実践的な取組例を示して授業における言語活動を充実させるよう授業改善への取組を各学校に促していく。

⑤ 「各科目におけるスピーキングテスト及びライティングテストの実施状況」について

令和3年度は、スピーキングテストは3.8回、ライティングテストは2.3回で共に増加であった。令和4年度は目標値の達成に向けて、「中学校外国語教育指導力向上研修」や「英語教育希望研修」で引き続き学習評価の研修を実施し、また教育課程研究会で実践事例の紹介し、授業改善を図り、適切な学習評価が着実に行われるよう取り組む。

⑥ 「英語担当教員の英語使用状況」について

令和3年度は、前々年度比4.7ポイント減の87.1%となり、目標値を達成した。令和4年度以降も目標値の達成に向けて、「中学校外国語教育指導力向上研修」や「英語教育希望研修」、外国語教育担当者会、教育課程研究会を通し、授業力向上の研修を実施し、各校の授業改善を進め、英語科教員の英語力・指導力向上を図っていく。

⑦ 「研修実施回数及び受講者数」について

現在の取組を継続・検証し、効果的な研修につなげていく。また、学校訪問による授業視察及び指導・助言を行う。

⑧ 「小中連携を実施している中学校の割合」について

外国語教育において小中連携を実施している中学校の割合は、今年度、外国語教育担当者会で各中学校区に分かれての小中情報交換を実施したことから、前々年度比28.8ポイント増の98%となった。令和4年度も外国語教育担当者会で小中連携会議を引き続き実施するとともに、各校種の小中教育課程研究会で小中連携の事例を取り上げながら、小中連携の推進を促していく。

【小学校】

① 「学習到達目標の整備状況（設定・公表・達成状況の把握）」について

令和3年度は、学習到達目標の設定については67.5%、公表については17.5%、達成状況の把握については47.4%であった。令和4年度は目標値である設定70%、公表30%、達成状況の把握50%の達成に向けて、「『CAN-DOリスト』の形での学習到達目標」を設定するとともに、それらを見守りや保護者と共有し、またホームページ等で公表することを研究会総会や各研修、教育課程研究会を通して各校に促していく。また、CAN-DOリスト及びそれを反映した年間指導計画を市教育委員会に提出するようにする。

② 「研修実施回数及び受講者数」について

現在の取組を継続・検証し、効果的な研修につなげていく。また、学校訪問による授業視察及び指導・助言を行う。

③ 「小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合」について

小学校教員の採用試験においては、中学年の外国語活動の導入と高学年の外国語の教科化を踏まえ、令和元年度実施の試験から、受験申込書添付資料（令和2年度実施の試験から名称を「面接カード」に変更）に「外国語の授業や外国語活動にいかせる資格・特技・海外在住・留学・経験等」欄を設け、外国語の指導にいかせる有用な資質・能力等として評価し、二次試験における総合的な判断材料としている。また、令和2年度実施の試験から、中学校英語の教員免許状を有する者に対して、一次試験における加点制度を、さらに、令和3年度実施の試験から、一定の英語力を有する者に対して一次試験における加点制度を導入しており、専科指導の体制整備に向けて、専科指導教員に求められる英語力を有する教員の確保に努めている。

(3) 研修の体系と内容の具体

○高等学校外国語教育指導力向上研修	
対象	高等学校の外国語教員（各校1名）
目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づく授業改善の方法、評価方法について学ぶ。 ・教員の指導力及び英語力の向上を図る。 ・授業研究会
受講予定者数	9名（全日制5名、定時制4名）
評価方法	・受講者のアンケートにより評価する。
○中学校外国語教育指導力向上研修	
対象	中学校の外国語教員
目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づく授業改善の方法、評価方法について学ぶ。 ・教員の指導力及び英語力の向上を図る。 ・授業研究会
受講予定者数	52名
評価方法	・受講者のアンケートにより評価する。
○小学校外国語中核教員（CET）研修	
対象	小学校の外国語教育中核教員（CET）
目的・予定	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の外国語（英語）教育における指導力及び英語力の向上に資する研修を実施し、各学校で外国語教育の中核を担う教員を育成する。 ・実践的な指導法について研修を行い、各校での授業改善を図る。
受講予定者数	115名
評価方法	・受講者のアンケートにより評価する。
○小学校英語強化教員（ERT）研修	
対象	小学校英語強化教員（ERT）
目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語教育における指導力及び英語力の向上に資する研修を実施し、各学校で学級担任を英語面で補助する小学校英語強化教員（ERT）を育成する。
受講予定者数	23名
評価方法	・受講者のアンケートにより評価する。
○英語教育希望研修	
対象	小学校教員、中高の英語科教員
目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づく授業改善の方法、評価方法等について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ○英語をより多く使って授業を進めよう ○学習評価研修講座 ○ICTを活用した授業づくり講座 ・教員の指導力及び英語力の向上を図る。
受講予定者数	各研修定員 30名
評価方法	・受講者のアンケートにより評価する。

(4) 年間事業計画

月	川崎市の取組	外部専門機関等
4月	第1回 ERT 研修	
5月		
6月	第1回 CET 研修 第1回高等学校外国語教育指導力向上研修	
7月	第1回中学校外国語教育指導力向上研修 第2回 ERT 研修	
8月	英語教育希望研修 第1回小中学校教育課程研究会 第2回小中教育課程研究会	
9月	第1回高等学校各教科等研究協議会	
10月		
11月	第2回中学校外国語教育指導力向上研修 第2回高等学校外国語教育指導力向上研修 第2回 CET 研修	
12月	第2回高等学校各教科等研究協議会 第3回 ERT 研修	
1月		
2月		
3月	小中高合同外国語教育担当者会 (兼第3回 CET 研修)	
【その他の取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校外国語・国際教育研究会、中学校英語科部会、高等学校英語科部会との連携 ・ 英語教材作成支援システム LEAD (NHK エデュケーショナル) の中・高等学校での活用 ・ 小学校教員の英語力および指導力向上のための大学との連携 		

